ビジネスインタビュー
ヒットの兆し
Made in Gifu

「自分らしく」生きるための架け橋を

仕事や家庭での介護などストレスの多い現代社会において心の病は増加傾向にあり、身体のリハビリ施設のような治療やサポートなどのサービス需要は高まってきています。そのような中、令和五年九月 株式会社くべる 代表取締役の木挽（こびき） 秀夫さんにより、心の病を患った人の社会への適応を後押ししたいという理念を実現すべく訪問看護ステーション「ひまわり」が開業されました。
ここには「障がいを持つ方々が『生きる』を楽しみ、それぞれの『希望』を実現できるようサポートしたい」という木挽さんの想いがあふれています。
今回は、開業にいたった経緯や「ひまわり」のサポート、これからの夢についてお話をお伺いしました。

株式会社くべる 代表取締役 木挽（こびき）秀夫さん

「ひまわり」誕生にいたるまで

木挽（こびき）秀夫さん五十九歳。

木挽さんは、高校卒業後、臨床検査技師を目指し精神科単科の病院に就職、臨床検査技師の資格取得を目指しながら看護助手として勤務していました。しかし、直接患者さんと関わることができる「看護」の仕事に大きな魅力を感じるようになり、看護師の資格を取得、患者さんと真摯に向き合ってきました。そんな木挽さんには忘れられない出来事があります。

「当時働いていた病院でアルコール依存症の治療を専門的に行うことになりました。専門機関で学び、病棟スタッフの教育や患者サポートに取り組んでいました。その中で、何度も入退院を繰り返しているひとりの患者さんがいらっしゃいました。退院の日が近づいたある日、涙を浮かべて、『入院時期によって治療が全然違う。どうして始めから新しい治療をしてくれなかったのか。そうすれば自分の人生はもっと違うものになっていた』と訴えてきたのです。我々看護する側の知識がないことは患者さんを苦しめるのだと強く感じました」

これをきっかけに、木挽さんは精神科で看護する看護師の「教育」が大切だと悟り、その後二十年ほど専門学校教員として看護師の教育に携わります。

そんな想いで教育に当たっていた木挽さんの元からは、多くの教え子が看護師として巣立っていきました。しかし中にはせっかく資格を取得したにもかかわらず、医療の職場から離れざるを得なくなった教え子もいました。

「頑張って働けていると思っていた教え子の中に、うつ症状を発症し仕事を辞めざるを得なくなった教え子もいました。また、もともと発達障害をもっていた教え子は、指示通りに出来ないことで看護師として働くことを諦めました。せっかく苦労して国家資格を取得しても、実際に働き始めると、環境に適合できず働けない、そんな教え子を何人も見てきて、何とかしたいと歯がゆさが募っていきました」

看護師という仕事は命を扱い、人と密に接する仕事であり、また夜勤など勤務も非常に負荷が高く、メンタルヘルスにおいてハイリスクな職種と言われています。そのような中で患者さんにきめ細かいケアをすることが望まれているからこそ、看護する側もできる限り心の状態に合わせた『働く場所』が必要なのではないか、という想いを強く抱くようになりました。

「夜勤のない訪問看護ステーションだったら、心の状態に合わせて治療しながら働けます。また、精神障がいだけでなく、病気や事故で健康な時と同じようには働けなくなった看護師や保育士、保健師など十分な知識をもった有資格者は沢山います。通常勤務で働くことが難しい有資格者が自分の症状に合わせた『働く場所』が他にもあれば自分の障がいと向き合いながら仕事ができるようになるのではないでしょうか」

この想いを実現するために、木挽さんは、働きながら病気と向き合う環境を作るために「ひまわり」を立ち上げました。

心のリカバリーを目指したステーション

現在、心の病をかかえる方々の治療の場が医療機関から在宅へ移行しています。そのため地域のサポート体制が必要であり、訪問看護のニーズは全国的に高まっています。

「利用者さんと接するにあたり、様子を見ながらの適切なやり取りが必要です。看護師にはコミュニケーション能力やとっさの対応・判断が求められます。利用者さんの中には、自分の症状、気持ちをうまく伝えられないケースもあります。看護師が、利用者さんの精神面や身体面、生活習慣の些細な変化をきちんと気づいてサポートし、本人がどんな生活をしたいのかじっくりとヒアリングしています」

また、「ひまわり」では、ヒアリングをもとに一緒に出来ることを探し、共に経験することを大切にしています。

「精神障がいの方々は小さい頃から周囲からはじかれ孤立しやすいのです。そのため、友人と一緒に何かをする経験が乏しく、人との関係の作り方、交わり方が分からないと感じることが多々あるようです。そのような方の治療の一例として料理をすることもあります。会話をしながら、看護師と一緒に料理をする体験から始め、いずれ一人で作ることができるように補助していきます。難しい料理でなくても、カレーのルーの箱の作り方を見ながら材料を用意することから始め、最後まで作ることができるようになれば本人にとってはそれが成功体験となるのです」

「ひまわり」が目指しているものは障がいを持っている方々のリカバリーの実現です。

「リカバリーとは心に問題を抱えていても自分らしく生きるために、自分が望む生活が出来るように一緒に考えようという理念です。障がいを持っていてもそれをコントロールしながら地域社会の中で自分らしくいるための手助けとして訪問看護などのリハビリテーション施設はますます重要になっていくと思います」

自分のこうなりたいという希望の実現にむけ、一緒に考え形にしていく、それが訪問看護ステーション「ひまわり」の目指す看護です。

『生きる』を楽しむために一歩ずつ

木挽さんがいま目指しているのは、企業や学校との連携の実現です。その実現に向け、企業や個人に対して、精神障がい者支援の研修会を行うなど理解の輪を広げるために精力的に活動しています。

「身体障がい者に比べ、精神障がい者の雇用には二の足を踏む企業が少なくない気がします。きっと接し方が分からないからではないでしょうか。理解をしてもらえるようになれば、雇用にもつながってくると思うのです」

また、障がいのためにリタイアを余儀なくされた、さまざまな有資格者たちの雇用創出に向けた病院や企業とのマッチングなど、従業員と企業をつなぐ事業も思い描いています。

「私たちが従業員と企業の間に立つことで、職場内でのサポート体制が整います。また起き上がることすら出来ないほどの症状の場合は、看護師が訪問するなど、心が壊れてしまう前に手助けするシステムを確立すれば、企業側も病気による休職や退職を事前に防ぐことができ、従業員、企業の双方にプラスになるのではないでしょうか」

心の病を抱えた人が、こう生きたいという『希望』を実現するために、勤務を通したリハビリテーションや課題を持った利用者を理解してもらったうえでの就労など、障がいに合わせた自分の『働き方』を築き上げ、自分らしい『生きる』を楽しむ。木挽さんは、その実現のためにこれからも、ひとつひとつ丁寧に橋を架け続けていきます。

株式会社くべる
住所　岐阜市切通2-5-13
TEL　058-374-5779
FAX　058-374-5782
URL　https://kvell-1248.co.jp/companyprofile/